

News IR

〒102-8336
東京都千代田区三番町6番地16
二松學舎大学 大学改革推進部 IR 推進室

TEL (03)3261-1285
FAX (03)3261-7413
[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp

2017 VOL.02

Contents

- ◆「学生の実態・満足度調査」をうけた取組みと改善事項について・・・1
- ◆「学生の実態・満足度調査」実施について・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ◆「学生による授業アンケート」にみる本学学生の学習時間について・・・3
- ◆オーバービュー（Overview）の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- ◆二松學舎憲章・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

◆「学生の実態・満足度調査」をうけた取組みと改善事項について

平成28（2016）年1月に、本学の1年生、4年生を対象とした、実態・満足度調査を実施しました。詳細は、『News IR』1号をご覧ください。上記調査から、IR推進室では次のように本学校の課題を整理しました。

【学生の実態・満足度調査から浮かび上がった課題】

- ① 授業における、学生同士の議論、口頭発表等をより一層展開すること。
- ② 高次アクティブ・ラーニングに関する情報収集及び実施、実施後の教員間での議論。
- ③ 初年次教育の工夫
 - (ア) 参考文献の引用方法等を体験的に行うガイダンスの実施。
 - (イ) Web・図書館等を活用した情報収集・分析やレポートを課題として付与することにより、本学での情報収集・調査研究アプローチの定着が図られるよう検討。
 - (ウ) グループ・ピア（隣同士・仲間）ディスカッションやピアワーク等仲間との会話を通じて、知識の定着、考え方の受容性や協調性を育てる授業展開が図れないか検討。
- ④ 利用度の高い施設（図書館、学生ホール・ラウンジ、学生食堂）の継続的な改善。
- ⑤ Web利用環境の整備。

調査により、浮かび上がった課題に対し、本学では、下記のような取組みを進めています。

【課題解決への取組み状況】

●学生同士の議論、口頭発表、高次アクティブ・ラーニングへの取組み

- ① 各授業において、教員が意識して学生同士の議論、口頭発表等を促す**アクティブ・ラーニング**を実施しています。
- ② 教員同士による「**公開授業**」を実施して、アクティブ・ラーニングをはじめとした教授法のブラッシュアップを図っています。
- ③ アクティブ・ラーニング等をテーマとする**FD**（ファカルティ・ディベロップメント：教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組みの総称）を実施しました。

●初年次教育の工夫の検討

▶「基礎ゼミナール」共通テキスト作成委員会において、初年次教育の更なる工夫・充実が図れないか、下記のように検討が行われています。

- ① **自校教育**の充実。
- ② 図書館やラーニング・コモンズをより体験的に活用すること。
- ③ 基礎ゼミナールにおいて、**ワークシート、ピア・ワーク作業**を取り入れながらアクティブ・ラーニングの導入を図ること。

●利用度の高い施設の改善

▶図書課・IR推進室によるアンケート調査、ラーニング・コモンズ運営管理委員会での議論を経て、図書課を中心に下記の改善を実施しました。

- ① ラーニング・コモンズ利用案内を1号館1階教務課・学生支援課の掲示場所に明示しました。
- ② ラーニング・コモンズ館内の掲示（動線や利用ルールに関する案内）が工夫されました。
- ③ 常設パソコン21台と1階設置の**プリンターとを接続**し、学究目的の印刷物は図書館の貸出用パソコンと同様に無料で提供されることになりました。
- ④ 常設パソコン21台にマウスを接続し操作性を改善しました。
- ⑤ 背面USB差込口に専用マウスを接続し、側面USB差込口を利用しやすくしました。
- ⑥ ラーニング・コモンズ内でのペットボトル等の**飲用持ち込み可能が明確**になりました。
- ⑦ 館内地図にて、ラーニング・コモンズ付近の自動販売機の場所が分かりやすく明示されました。
- ⑧ ブランケットの貸出を行う等、室温調整に気をつけています。

▶**学生ホール・ラウンジ、学生食堂**を中心に下記の改善を実施しました。

- ① 1・2号館内共用部ダウンライトの**LED化**により、節電対策としての照明の「間引き」を解消しました。
- ② 1号館地下1階学生食堂の照度の低い箇所に**ダウンライトを増設**しました。
- ③ 1号館地下1階**トイレリニューアル**（女子トイレにはパウダーコーナー設置）をしました。
- ④ **100円朝食**を始めました。

●Web利用環境の整備

▶**Web回線の増束**により繋がりやすくするネットワーク環境の改善を行いました。

◆「学生の実態・満足度調査」実施について

本学では、今後も継続して「学生の実態・満足度調査」を実施し、調査結果の分析にもとづき、教育改革に向けたPDCAサイクルを運用し、学術・教育研究活動の改善を図っていきたいと考えています。

平成28年度の標記調査は、先生方、学生の皆さんの協力を得て、1年生、3年生を対象に、平成29（2017）年1月～2月にかけて実施しました。調査結果等は、集計、分析を経て、今後の『News IR』に掲載する予定です。

◆「学生による授業アンケート」にみる本学学生の学習時間について

⇒学生の課外学習時間が改善されています。

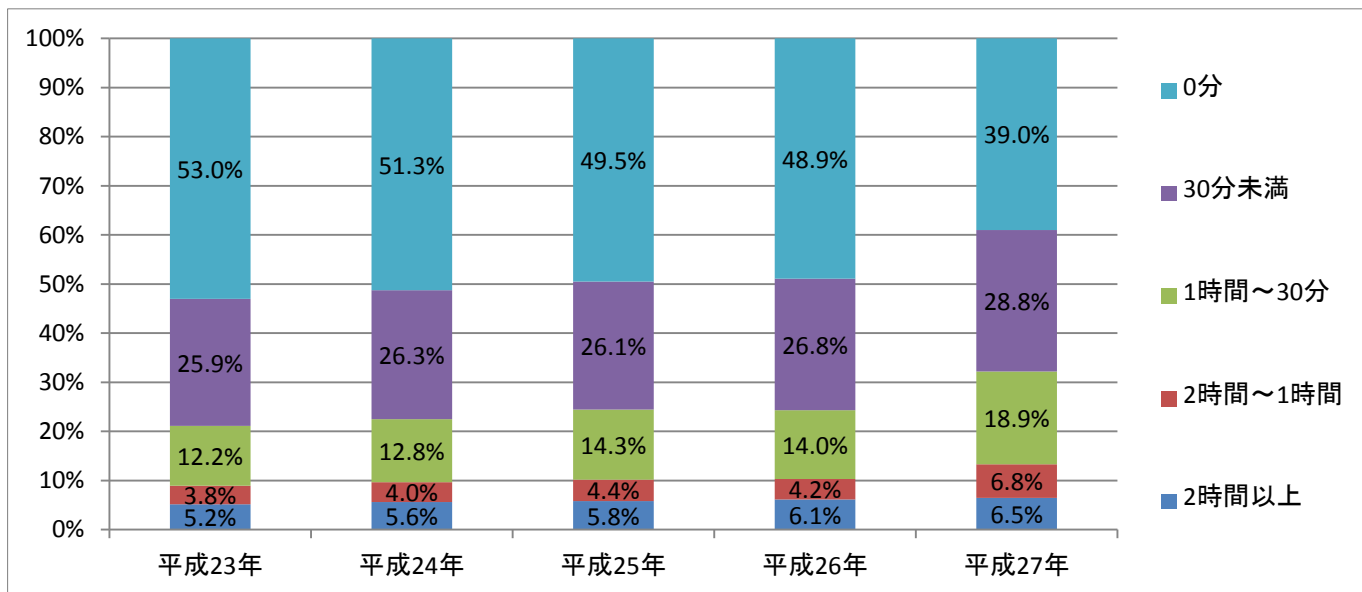
文部科学省では、平成20（2008）年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」以来、各大学に、学生の学習時間等の実態把握、授業計画の明確化、必要な授業時間の確保等を求めています。背景としては、日本の大学生の学習時間が国際的にみて相対的に短い傾向にあることがあげられます。日本の大学は、大学設置基準第21条にあるように、単位制度を基本とし、「1単位あたり45時間の学修※1」を標準としています。また、この「1単位あたりの学修時間は、授業時間内の学修時間だけではなく、その授業の事前の準備学修・事後の復習を合わせたもの」となっています。

このような観点の下、本学が授業の改善を目的に毎年実施している授業アンケート調査結果から、授業時間外学習の時間推移を分析しました。その結果、平成23年と平成27年を比較する※2と、この5年間の間に全学科において「0分」との回答割合が1割以上減少していました（下記参照）。

平成28年1月実施の「学生の実態・満足度調査」では、本学において一般的なアクティブ・ラーニングが頻度高く実施されているとの結果が示されましたが、「0分」の回答割合の減少は、シラバスにおける予習・復習方法の明示やアクティブ・ラーニング等の活動が本学にて着実に実施されている状況を裏付けるものと考えられます。

※1：文部科学省では、大学での学びは、「学修」となっている。「大学設置基準上、大学での学びは「学修」としている。これは、大学での学びの本質は、講義、演習、実験、実習、実技等の授業時間とともに、**授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した「単位制」により形成されていることによる**」（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」中央教育審議会答申平成24（2012）年8月28日）としている。

※2：授業アンケート質問票の文章は、平成27年調査時に変更（「授業にはどの程度予習・復習をして臨みましたか。」→「あなたは1回の授業に対し、平均してどの程度予習・復習・関連文献の読書などの授業時間外の学習をしましたか。」）しているため、「0分」を基準に分析。



▲授業時間外学習の年度推移（全学科）

▼授業アンケート担当者から

学生が授業を受ける際に必要となる「読書」を授業時間外学習と認識していない可能性があるため、今後授業アンケートを実施する際の説明を工夫したいと考えています。

◆ オーバービュー (Overview) の作成

本学では、各高校の関係者の皆様方に生徒の本学入学を検討して頂くため、高校訪問を行っています。訪問の際に、高校の先生方等に本学に関する情報を適切に伝えることを目的として、本学の概要を客観的な数値等で表したパンフレットを作成しました※1。



(←表紙)



(内容→)

※1：このパンフレットは、本学への進学を検討される高校の先生方等に口頭での説明とともに配付することを目的としており、ホームページ等での公表は予定しておりません。

【二松学舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体現者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に常に努め、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に常に目を向け、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R 推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp